



エス・ディ・ジーズ

『SDGs』ってなんだろう？

日本語に訳せば「持続可能な開発目標」。2015年の国連サミットで採択。

人類がこの地球で暮らし続けていくために、2030年までに達成すべき目標

貧困、紛争、気候変動、感染症。人類はこれまでになかったような数多くの課題に直面しています。このままでは、人類が安定してこの世界で暮らし続けることができなくなると心配されています。そんな危機感から、世界中のさまざまな立場の人々が話し合い、課題を整理し、解決方法を考え、2030年までに達成すべき具体的な目標を立てました。それが「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs)」です。(日本ユニセフ協会(unicef.or.jp)より抜粋)

SDGsには17の目標があります。人権、経済・社会、地球環境、さまざまな分野にまたがった課題が分類されています。2023年の夏は誰もが地球温暖化を実感したのではないのでしょうか。今回は、「地球環境」に関する課題に目を向け、地球環境を守るために私たちができることを考えてみたいと思います。

院長 鈴木 祥郎

13 気候変動に具体的な対策を



『地球沸騰化!!』世界各地で大規模な自然災害が…。生態系にも異変、三陸沖で伊勢海老が捕れる!

2023年夏、国連のグテーレス事務総長がもはや「地球沸騰化」という表現をして世界に警鐘を鳴らしました。日本でも、夏の平均気温偏差は+1.76と過去に比べ飛び抜けて暑い長い夏でした。熱中症などの健康被害や、農産物の被害・品質低下が話題になり、また、豪雨や巨大な台風による自然災害も毎年のように起きています。私たちの身近でも、桜の開花が早まったり、石巻で太刀魚や伊勢海老が捕れるなど、陸も海も変化していることを感じざるを得ません。気候変動は、私達の健康や食料生産能力、住まい、安全、そして仕事に影響を及ぼす可能性があり、他人事ではありません。

世界では、2023年夏ハワイマウイ島の大規模な山火事がありました。2022年9月にはパキスタンで国土の1/3が水没する洪水がありました。熱波により氷床が溶け河川の水位が上昇していたところに大型のモンスーンが襲来したことが原因と考えられています。

地球温暖化は、熱波や干ばつ、激しい台風やモンスーン、洪水、森林火災、氷床の融解、海面上昇などの自然災害を引き起こします。そして、海や陸の生物の生態系に損失を与えます。また、熱中症や新たな感染症などの健康被害が広がることも危惧されています。



巨大台風



洪水



干ばつ



極地の氷の融解



海面上昇



パンデミック

●温暖化の原因●

人間社会の産業活動や生活で排出された二酸化炭素 (CO₂) やメタンなどの温室効果ガスが地球を覆うと、太陽の熱が閉じ込められ気温が上昇。CO₂は化石燃料 (石油・石炭・ガス) を燃やすことで発生。CO₂を吸収する森林の減少が世界的に進んでいることも一因。



私たちは「買う・使う・捨てる」を見直す時期に…





気候変動により世界で食料生産能力に変化が…。 環境にやさしい食生活とは…？

● 食料自給率・フードマイレージの問題

日本は多くの食べ物を海外からの輸入に頼っています。日本の食料自給率は、カロリーベースで38%と先進国の中でも最も低く、2022年以降、ウクライナ問題や気候変動、また円安により輸入食材の高騰が私たちの食卓を直撃しています。

一方、フードマイレージ（食料の輸送量(t)×輸送距離(Km)）は世界トップクラスで（図1）、食品高騰の問題だけでなく地球環境に大きな負荷をかけていることも考えなければなりません。

『フードマイレージ』とは 「食料の輸入が地球環境に与える負荷」のこと

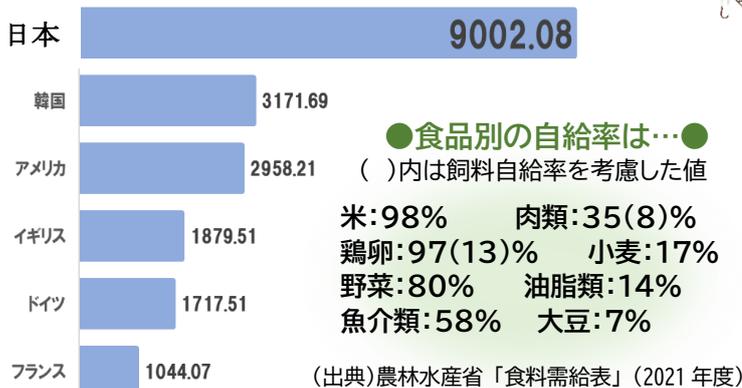


図1 主要国のフードマイレージ
(出典)農林水産政策研究所(2001年)

● 日本の食品ロスは家庭からが約半数！

食品ロスとは、「まだ食べられるのに、捨てられてしまう食べ物のこと」をいいます。もったいなくだけでなく、ゴミの焼却にともなう環境問題も深刻です。特に、水分を多く含む食品の焼却には多くのエネルギーが必要で、処理費用も掛かり、焼却時には二酸化炭素(CO₂)が排出されます。

家庭での食品ロスは、食べ残しの他に食材を料理することなくそのまま捨ててしまう直接廃棄や過剰除去（皮や種などの取りすぎ）があり、いずれも大きな課題となっています（図2）。

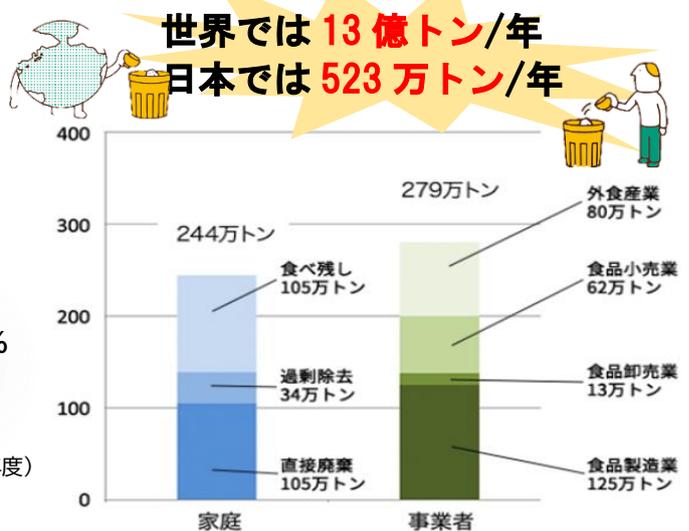


図2 日本のフードロスの内訳
(出典)農林水産省及び環境省推計(2021年度)

Q&A この食べ物は賞味期限？消費期限？



ヒント

賞味期限は期限が切れてもまだ食べられる！

【賞味期限】

この年月日まで、品質が変わらずにおいしく食べられる期限のこと

【消費期限】

この年月日まで、安全に食べられる期限のこと

“エシカル消費”ははじめませんか？

<フードマイレージ削減のために>

国産

- ・国産の食材を購入する
- ・旬の食べ物を選ぶ
- ・地産地消に取り組む

地産地消



<食品ロス削減のために>

- ・食べ残しを減らす
- ・「てまえどり」に取り組む
- ・使う分、食べる量だけ買う
- ・食べられる分だけ作る



*賞味期限が近い商品が置いてある手前から買うという取り組み

魚の量よりプラスチックごみの量が上回る!?

日本はプラスチックごみ大国



● 海洋汚染の現状

世界の海洋には約 1 億 5000 万トンのプラスチックが漂流しており、さらに毎年新たに約 800 万トン追加されているとの指摘があります。このままでは、「2050 年には、海洋プラスチックゴミの量が海にいる魚の量を上回る」という予測もあります。海洋プラスチックごみの 80%以上は陸上で発生し海へ漂流したものであり、その内の 60%以上が包装容器などの使い捨てプラスチックとされています。



● 『マイクロプラスチック』の脅威

プラスチックは安価で大量生産ができ、水に強く腐食しにくく軽量で衝撃にも強いという特徴があります。しかし微生物では分解されないため長く自然界に残り続けます。海へ流れたプラスチックは紫外線や波などの自然環境中で粉砕され、5 mm以下のマイクロプラスチックになります。マイクロプラスチックを餌と間違え誤飲した海鳥のヒナや魚やクジラなどの哺乳類が犠牲になったり、その魚を私達が食べることで人体への悪影響も示唆されています。



● 日本はプラスチック容器包装の廃棄量が世界第2位!

レジ袋・卵のパック・ペットボトルなど容器包装プラスチックと呼ばれている物を日本人はたくさん使い捨てています。国民 1 人当たりのプラスチック容器包装の廃棄量は約 35 kg とされており、アメリカに次いで第 2 位です。(図 3)

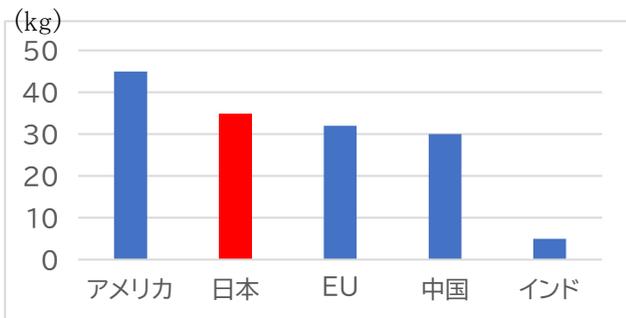


図 3 国民 1 人が捨てる容器包装プラスチック(2014年)

(出典)国際環境計画(UNFP)より

● 日本のプラスチックリサイクル率は 87%?それとも 25%?

2021 年の日本のプラスチックリサイクル率は 87%と「環境先進国」のようですが、日本は欧州と異なりプラスチックを焼却し熱エネルギーとして再利用する方式(サーマルリサイクル)もリサイクルと定義しているため、見かけ上の数字が高くなっているのです。サーマルリサイクルを除けば 25%で、欧州の 35%より低い数値となります。

プラスチックの製造・焼却時には地球温暖化の原因となる CO₂を排出するため、世界では脱プラスチックの動きが加速しています。

日本でもレジ袋の有料化や紙ストローへの切り替えなど始まっていますが、ゴミの発生自体を減らすことが求められています。



ゴミ自体を減らす工夫、繰り返し使い、できるだけリサイクルへ



Reduce(リデュース)

ゴミの発生自体を減らしましょう

- ・エコバック
- ・マイボトルの活用



Reuse(リユース)

繰り返し使用しましょう

- ・リターナブル瓶(ビール瓶や一升瓶)を返却・回収
- ・フリーマーケットやリサイクルショップを利用



Recycle(リサイクル)

資源として利用しましょう

- ・ゴミを分別して資源として使う



私たちの健康は『地球の健康』があってこそ。
地球環境を守るために、何かはじめませんか。



化学療法室と薬剤科が 2 階に移転しました。

～静かな環境でゆったりと治療ができるようになりました～



院内処方の方は
エレベーターを降りて
左前にお進み下さい。



2024 年春、X線TV装置の最新機種を導入！

放射線部では、まもなく『X線TV装置(透視装置)』を最新機種に更新します。
X線TVとは、X線照射しながらモニター画面上で人体内部をリアルタイムに透視観察し撮影する装置です。主に胃のバリウム検査や、内視鏡を使って胆管・膵管を造影する検査 ERCP(内視鏡的逆行性胆管膵管造影)などを行います。当院は、この装置で年間 300 から 400 件ほどの検査・治療を行っています。

最新機種の最大の特長は、透視台は固定されていて X線を照射する管球を縦・横・斜めに傾けることができ、観察したい部位を的確に捉えることができるという点です。X線管自体を移動して観察するので、**患者様の動きを最小限に抑えて安全に検査を行うことができます。**また、低線量モードなど多彩な機能で、

被ばく線量もより少なく検査が可能です。

CUREVISTA Apex Digital RF System



製造販売元：富士フイルムヘルスケア(株)

● 病院の実績 ●

2023 年 11 月度	月計	平均
外来患者数(名)	2961	123.4(外来稼働日)
入院患者数(名)	998	33.3(1日あたり)
血液透析症例数(名)	1455	56(透析稼働日)
入院平均在院日数(日)		9.0
病床稼働率(%)	70.1	
手術件数(件)	48	
内視鏡検査数(件)	417	

● 編集後記 ●

新年明けましておめでとうございます。
2024 年「甲辰」、昇り竜のように勢いのある活気あふれる一年になると良いですね。
さて、今年最初の 49 号は『SDGs』をテーマに掲載しましたが、いかがでしたか？私たちの健康は『地球の健康』があってこそ。身近なところから取り組んでいきませんか。

広報部会 中鉢